

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



# ウィメンズブックス

New26号 2007年8月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

## 目次

|                                                       |      |
|-------------------------------------------------------|------|
| 巻頭言『つながって一歩ずつ前へ 自治体の女性行政』大西祥世 .....                   | (1)  |
| 最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています .....                         | (2)  |
| ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です ..... | (13) |
| 編集長の著者インタビュー『気づいて乗りこえる』の著者 長谷川七重さんに聞く .....           | (14) |
| HOT・FILE .....                                        | (15) |
| ウィメンズブックスストア TOP5 (5・6・7月) .....                      | (16) |
| Women's Booksからの風『ウィメンズブックス』のニュース・お知らせなどのページです .....  | (16) |

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

## つながって一歩ずつ前へ 自治体の女性行政

(財) 地方自治総合研究所特別研究員

大西 祥世

7月29日に行われた第21回参議院選挙では26人の女性候補者が当選し、当選者数の21.5%を占めた。非改選議員とあわせると女性議員は42人(17.4%)となった。いずれも、女性比率は過去最高である。加えて、26人中14人が選挙区での当選者であり、比例区の12人を上回った。地域の女性の躍進と、それを支えた草の根パワーが印象に残った選挙であった。

他方で、この数年、女性・男女共同参画行政の元気がない自治体が増えたといわれている。10年前は「21世紀は男女共同参画の時代」という元気のよいかげ声が、地域の女性運動にも自治体にも響いていた。現状はそれほど暗いのだろうか。それとも、今なお地域に灯は点っているのだろうか。

私は、多くの自治体ではなお女性行政に取り組む意欲が強いとみている。一部の地域ではたしかに見直し論が吹き荒れたけれども、全国的にはギアを入れかえて前進している。条例や計画という制度的な基盤もしっかりしている。静岡県田市等の、積極的な市民参画を求めて条例が制定されたことには、とくに元気づけられる。そこに今度の参議院選挙の嬉しい結果が加わった。希望の灯は消えていないと思う。

そこで、自治体女性行政の現状を、いくつか例を挙げて、考えてみたい。

まず、今世紀に入ってから、自治体の女性行政をめぐる状況を見てみたい。もっとも大きく変わった点は、自治体で男女共同参画条例が制定されるようになったことであろう。内閣府男女共同参画局の調査によると、2006年4月1日現在で、46都道府県、すべての15政令市、223市区(28.3%)、55町村(5.3%)の合計339自治体で条例が制定されている。この間には、2002年に全国で初めて保守派が賛同する条例が山口県宇部市で制定されたり、国会で性教育に反対の立場からの議論が提起されたりした。しかし、2002年度は60条例、2003年度は59条例、2004年度は66条例、2005年度は80条例が新た

に制定されて、順調に制定数は伸びている。

また、男女共同参画の行動計画の策定率をみると、市町村では2002年4月1日現在で23.4%であったのが、2006年(同)は44.4%となり、ほぼ倍となった。平成の大合併によって、その間に市町村の数は1398(約45%)減ったにもかかわらず、条例・計画を整備した自治体はこれだけ増えている。この動きは注目できよう。

では、条例や計画で重点が置かれている政策課題の内容はどうだろうか。ここ数年の特色としては、第一に、農林漁業・商業などの自営業で仕事をする女性たちへの支援が重視されて、女性の経済的な自立をサポートする施策が実施されている。起業支援も積極的である。

第二に、事業者に対しては、女性がより活躍できるような環境は、女性も男性も仕事と生活が快適に両立できるよう工夫することを求め、支援をする試みがある。こうした事業者を自治体が認定し、あるいは協定を結んで、銀行の低利子融資を利用できるようにしたり、ホームページ等を活用して企業のPRに役買ったりして、ともに取り組んでいくというまいる。こうした動きは、男女平等の地域をつくろう、というまちづくり政策の一環でもある。

第三に、女性の人権に関連しては、条例や計画に、間接差別の禁止や、性同一性障害者の配慮、人身売買や売買春の禁止といった内容を盛り込む自治体もある。自治総研のウェブサイトでは、全国すべての自治体の男女共同参画条例を、改正や廃止された過去のものも含めて見ることができ、各地の自治体での関係者の奮闘ぶりがよく分かる。

今回の参院選で各地の元気な女性たちが底力をみせた。つながりあって、地域で一歩ずつ前に進むことを願っている。



巻頭言

## 最新刊情報

フェミニズム・女性学 ..... (2)  
 家庭・家族・衣食住 ..... (3)  
 子育て・教育 ..... (4)  
 法律・政治・政策 ..... (5)  
 労働・仕事 ..... (5)

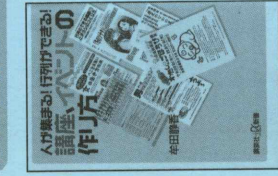
セクシュアリティ ..... (6)  
 セクハラ・暴力 ..... (7)  
 文学・エッセイ・芸術 ..... (8)  
 ことば・癒し ..... (10)  
 女性史・歴史 ..... (10)

からだ ..... (11)  
 高齢・福祉 ..... (12)  
 自伝・評伝 ..... (13)  
 平和・開発・エコロジー ..... (13)  
 資料 ..... (14)



## 【フェミニズム・女性学】

## 人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方

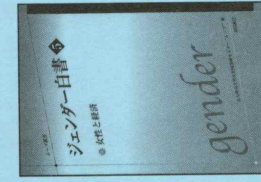


牟田静香/著 講談社  
 2007年4月 840円

東京都にある大田区男女平等推進センター「エセナおおた」の指定管理者として講座企画の実績をつんだ著者が、どうしたら人の集まる講座を実施することができるか、そのためのちらしはどう作った方がいいかを伝授。現場の実践に基づいた「熱意」の発信

## ジェンダー白書5 女性と経済

北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”/編  
 明石書店 2007年3月 2520円



北九州市立男女共同参画センターが刊行する『ムーブ叢書 ジェンダー白書』第5巻目。グローバル化、多様化した「経済」領域におけるジェンダーの課題を考察している。「経済危機とジェンダー」(大沢真理)「ジェンダー予算」(大崎麻子)「男女共同参画社会と賃金の未来戦略」(森ますみ)など、この分野の論点がきっちり学べるようになっていく。学習会に最適

## ポジティブ・アクションの可能性 男女共同参画社会の制度デザインのために



田村哲樹、金井篤子/編  
 ナカニシヤ出版 2007年5月 3675円  
 “ポジティブ・アクション”を、政治学、法学、女性学、キャリア心理学などの多岐から学際的に考察した研究書。第一部理論編、第二部実態編に分かれて、刺激的な論文が並ぶ。ポジティブ・アクションをこれだけ総合的に、多面的に考察した本ははじめてかも。

## 「女ことば」はつくられる

中村桃子/著 ひつじ書房 2007年7月 2940円



「女ことば」は「女の人が話している言葉づかい」ではない。それは「日本語には女ことばがある」という“信念”により“つくり出された”ものである。本書が明らかにしているのは、この「言語イデオロギー」の歴史的形形成過程。その上で、従来の枠組みにジェンダーをつけただけの言語研究はやめ、言語研究自体のもつイデオロギーの働きに自覚的であらうと主張している。

## 植物と帝国 抹殺された中絶薬とジェンダー

ロンダ・シービング/著 尾川眞理子、弓削尚子/著  
 工作舎 2007年5月 3990円



「ジェンダーと科学」のテーマのパイオニアで「ジェンダーは科学を変えろ!」や『科学史から消された女性たち』等で日本でも多くの読者を獲得しているロンダ・シービングの邦訳4冊目。18世紀ヨーロッパで帝国主義の威信をかけて行われた植民地での植物探査。しかし、植民地の女性たちが抵抗の手段としてもいた中絶用植物の知識は、本国では抹殺された。本国でも植民地でも、女性の「産む営み」は権力により操作され、女性は結局は「産む機械」だったのだ。

## インドの女性 アジア女性シリーズ No.12

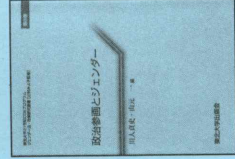
Charitis Aid Foundation, India/著  
 (財)アジア女性交流・研究フォーラム/訳  
 (財)アジア女性交流・研究フォーラム  
 1000円



アジア女性の地位向上を目指した情報収集・発信事業の一環として(財)アジア女性交流・研究フォーラムが各国女性の状況を紹介するシリーズの最終巻。インドのNGOが執筆し、当財団が翻訳した。インドにおける女性のエンパワーメントのための国家政策等、大変参考になる。

## 政治参画とジェンダー 東北大学21世紀COEプログラム ジェンダー法・政策研究叢書第8巻

川人貞史、山元一/編 辻村みよ子/監修  
 東北大学出版会 2007年3月 2310円  
 日本の政治参画とジェンダーに関する理論的、実証的研究や政策的説明を進める書が出版された。第一部は「政治参画の法と制度」、第二部は「政治参画の実態」。辻村みよ子、山元一、相内眞子、大海篤子、岩本美砂子などの15論文。



## アフリカの医療・障害・ジェンダー ナイジェリア社会への新たな複眼的アプローチ

落合雄彦、金田知子/編著  
 晃洋書房 2007年3月 3465円



アフリカ、特にナイジェリア社会における病気・障害・差別などの困難にあった人々の生活を、当事者や医療、福祉従事者などの多角的視点からとらえている。ナイジェリアの医療や福祉、ジェンダーの現状や課題が具体的・多角的に検討されており興味深い。

## ジェンダー学と出会う

目黒依子/編 勁草書房 2007年6月 2310円  
各分野の第一線の研究者による「ジェンダー学との出会い」。聖心女子大学でジェンダー学が副専攻として開設されたのを機に開催されたシンポジウムの記録。

## やもめぐらし 寡婦の文化人類学

椎野若菜/編 明石書店  
2007年5月 3360円  
社会から零れ落ちた存在のような印象がある「やもめ」とはいかなるカテゴリーで、その処遇はどのようなかを多角的に考察している。第1部：制度のなかで生きるやもめ。第2部：やもめとセクシュアリティ。第3部：慣習、宗教と戦いのなかのやもめ。第4部：変容する社会と「たゆたう」やもめ。

## 聖書にみる女性たち 救いの歴史における女性の使命

京都司教区聖書委員会/編  
サンパウロ 2007年4月 1155円  
京都司教区聖書委員会の手による聖書講座「聖書における女性像」の記録

## 中国「女権」概念の変容 清末民初の人権とジェンダー

須藤瑞代/著 研文出版 2007年2月 6825円  
1890年代後半から1920年代の清末民初とよばれる時代。中国における国家形成途上のこの時代に「女権」をめぐる議論が集中的になされ、その後の中国における男女平等をめぐる運動や議論に大きな影響を与えたそうである。

## 法と暴力の記憶 東アジアの歴史経緯

高橋哲哉、北川東子、中島隆博/編  
東京大学出版会 2007年3月 3940円  
日本、韓国、中国、台湾などの東アジアの国、地域の歴史を「法と暴力の絡み合い」すなわち「共犯関係」という観点から考察している。法は暴力を告発するだけでなく、それ自身が暴力として抑圧の手段をとる

## 母と子のきずな パートⅡ 母子生活支援施設は家族を支援します

近藤政晴、坂本卓穂、田口信一、藤井常文/編著  
坂本信子/監修  
三学出版 2007年7月 2100円  
毎年毎年新たな入居者を迎える入居する母子支援施設の実践経験を紹介。前半は近年の利用者像、支援メニュー等。後半は関係機関とのネットワーク構築状況に言及。



## 住田裕子の離婚相談所

住田裕子/著 現代書林 2007年5月 1470円  
「行列のできる法律相談所」でおなじみの著者が考える離婚の仕方

## 離婚駆け込み寺 住職からのメッセージ

野口ひろみ/著 静岡新聞社 2007年4月 860円  
「日加タイムス」のリポーターが、カナダにおける離婚、自分探し、シングルペアレントとしての子育てを語る。

## 働くパパのための「幸福な家族」のつくり方

あいはいらひろゆき+読売広告社ネオパパ研究プロジェクト/著  
日経BP社 2007年2月 1365円



こともある。東アジア各国の歴史に通底しているのはこうした「法を通じた暴力」の歴史であり、ジェンダー視点を導入すると、それが一層明らかになってくる。

## フランスから見る日本ジェンダー史 権力と女性表象の日仏比較

棚沢直子・中嶋公子/編 新曜社 3360円  
フランスの女性の研究に携わる研究者たちが、日仏比較の視点から「日本ジェンダー史」を論じている。「妻の位置、母の位置」「性別二分化」「近代国家と女たち」などのテーマを軸に、フランス女性思想研究から得た知見をもとに日本ジェンダー史に挑んでいる。

## ジェンダーの地平

植野妙実子、林瑞枝/編著  
中央大学出版部 2007年7月 2520円  
日仏女性資料センターを拠点に開催されていた「フランス社会とジェンダー研究会」での研究を基礎に、本書は出版された。第一部：フランスの社会とジェンダー 第二部：フランスの法律とジェンダー 第三部：フランス女性の現在と未来



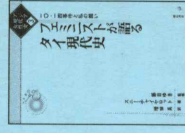
## 現代思想 10月臨時増刊号 第34巻 第12号

池上善彦/編 青土社 2006年10月 1575円  
総特集は「ジュディイス・バトラー〜触発する思想」。「錯乱的なものの倫理」(竹村和子、村山敏勝、新田啓子)他、本橋拓也、下河辺美知子、細見和之など



## フェミニストが語るタイ現代史 10.14事件と私の闘い

スニー・チャイヤロット/著 藤目ゆき/監修 増田真/訳  
明石書店 2007年7月 6195円  
「10.14事件」とは1973年に軍事政権を向こうにまわして学生運動がおこした民主化闘争。本書はその前後に闘争に入り、子育てしながら刑務所生活を送ったフェミニスト女性の書いた、タマサート大学大学院女性学コースの最優秀修士論文で、フェミニズムの視点からのタイ現代史。日本では文献も少ない分野の興味深い証言である。



## カップルが親になるとき

C・コローワン、P・コローワン/著 山田昌弘、開内文乃/訳  
勁草書房 2007年7月 2940円  
「子とはかすがいい」の時代は去り、現在は「子どもがいることが夫婦に危機をもたらし」時代だと著者。共働き夫婦の子育てをめぐる葛藤を調査分析し、15年前にアメリカでベストセラーになった本書。日本では今、アメリカと同じ状態にあるという。「子どもが生まれる」ことによって、夫婦関係が試される。



いくつつかの調査によると「家族志向＝仕事もできる」イメージが広まってきたという。「ワガママ」に仕事をして、ワークライフ・バランスを考えて生きていこうとしているそうだ。本書では、調査にあらわれたそういう「ネオパパ」たちの姿を描いている。

## 家族と犯罪 近しい者の憎悪はなぜ？

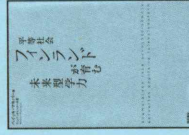
久田恵、戒能民江、小谷眞男、宮本みち子  
+OAA編集会/著  
(特)お茶の水学術事業会 2007年3月 500円  
読売・お茶大 女性アカデミア21の講演録。基調講演(久田恵)。パネリスト(戒能民江、久田恵、小谷眞男、宮本みち子)



## 〔子育て・教育〕

## 平等社会フィンランドが育む未来型学力

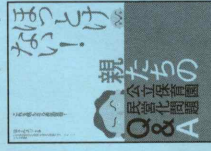
ヘイッキ・マキパー / 著 高瀬愛 / 監訳 末延弘子 / 訳  
明石書店 2007年5月 1890円



日本のフィンランドセンター所長が、フィンランドの教育について紹介している。1世紀近く続いてきた教育制度の見直しと発展のための信念が基礎となつて実現した、フィンランドの高学力。「教育は平等のいしずえ」と、きっぱり。

## ほっとけない！ 親たちの公立保育園民営化問題Q&amp;A これを読んだら勇気百倍！

ほうんネット / 編 ひとなる書房 2007年1月 1260円



編者のほうんネットとは「公立保育園民営化問題保護者の運動交流ネットワーク」のこと。全国に進められている公立保育園民営化とは何なのか、どうとらえるべきか、どうしたらいいか、についてわかりやすく解説している。

## 親子のハッピーコミュニケーション 子どもを伸ばす会話力

汐見稔幸 / 著 岩波書店 2007年5月 1365円  
親子の関係も基本はコミュニケーション。要は、相手の立場に立てるかどうか

## 保育所の廃止

田村和之 / 著 信山社 2007年5月 998円  
政府の方針として打ち出された公立保育所の廃止、民営化に対する裁判闘争が進み、効果も出始めた。ここ数年、保育所は大きくゆれ動いている。その裁判の状況を報告

## 放課後の居場所を考える 学童保育と「放課後子どもプラン」

下浦忠治 / 著 岩波書店 2007年5月 504円  
2006年に政府から突然出された「放課後子どもプラン」。その内容をめぐっては、期待ばかりでなく、不安やとまどいも混じっているようだ。「一本化された」学童保育クラブの側からの発信

## 子どもの危機・教育のいま 「改正教育基本法」時代の教育体制

佐野通夫 / 著 社会評論 2007年4月 2310円  
「教育基本法」が「改正」された。今の時代はどこに向かおうとしているのか。

## 江戸の躰と子育て

中江克己 / 著 祥伝社新書 2007年5月 777円  
江戸時代、「子は宝」であり、地域ぐるみの子育てがなされていた。本書を読むと、江戸の子どもたちが大切に育てられ、教育されていた様子がよくわかる。

もし、あなたが、その子だったら？ 軽度発達障がいと気になる子どもたち  
ほんの木 / 編 ほんの木 2007年6月 1575円  
63%の子どものうちが「軽度発達障がい」とあるという。「障がい」を「障がい」と感じなくなるような社会に近づくために、「障がい」の壁を少しずつ低くしていく。

## 子どもたちから大人への伝言 ひとり親家庭で育ったわたしたちの本音

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ関西 / 編  
NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ関西 2007年7月 525円  
母子家庭をはじめとする「ひとり親家庭」で育った子どもたちが本音を語っている。子どもたちのリアルな気持ち伝わってくる。

## フィンランドの子育てと保育 安心・平等・社会の育み

藤井二エミラみどり、高橋睦子 / 著  
(財)全国私立保育園連盟・保育国際交流運営委員会 / 編

## 韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援

日本福祉大学21世紀COEプログラム児童班 / 企画  
勅使千鶴 / 編  
新読書社 2007年3月 3150円



日本と同じように少子化に悩む韓国における、保育、幼児教育、子育て支援の全貌を明らかにしようとした書。韓国の課題の検討は、日本の課題解決を考える視座を提示してくれるという。

## 子どもの心をしずめる24の方法

エリザベス・クレアリー / 著 ミッツ・カタヤマ / 絵  
田上時子、本田敏子 / 訳  
築地書館 2007年7月 1680円



子どもの気持ちを落ち着かせる方法に身につけたいと願う親や教師たちに向けたガイドブック。著者は、スターペアレンティングというプログラムをつくり、アメリカ、カナダを中心に、実践活動をしている人。

フィンランドの教育から学べることの第一は、「安心」「平等」という。世界一高い学力を支えるフィンランドの就学前の取り組みを紹介。

## 母になるあなたへ ある産婦人科医が伝えたい20章

鮫島浩二 / 著 主婦の友社 2007年9月 1260円  
この道四半世紀のベテラン産婦人科医が「妊娠生活がつらい時、お産がこわくなりかけた時読んで」と語りかけている。

## よくわかる放課後子どもプラン

全国学童保育連絡協議会 / 編 ぎょうせい 2007年4月 1700円  
2006年に政府が打ち出した「放課後子どもプラン」。主として「放課後子ども教室推進事業」と「学童保育事業」から成り立つものであるが、まだまだ見えない部分があるという。

## 和典子著作選集

和典子著作選集編集委員会 / 編 学術出版 / 発行  
日本図書センター / 発売 2007年8月 5040円  
男女とも学ぶ家庭科の実現とジェンダー平等社会実現につく、2005年に逝去した和典子氏の著作集。巻頭にともに歩んだ人々による座談会「和典子の人とその仕事」がついている。

## 14歳の危機 自立を先送りする子どもたち

伊藤千佳子 / 著 せうろん社 2007年4月 1680円  
英語塾を経営し小学生から大学受験までの生徒に接する著者が、思春期の子どもたちの心と成長について書く。



## 乳幼児精神保健ケースブック フライバーグの育児支援治療プログラム

ジョアン・J・シリラ、デボラ・J・ウエザーストン / 編  
広瀬たい子 / 監訳 金剛出版 2007年6月 3570円  
乳幼児精神保健とは、乳幼児が安全で安定した親子関係の中で発達と健康を促進するための支援方法のこと。本書ではこの分野のパイオニア、セルマ・フライバーグの治療モデルを解説している。

## めざせポジティブADHD ギャグマンガで読み解く基礎知識&amp;克服法

あーさ / 著 山下裕史朗、水間宗幸 / 監修  
書肆侃侃房 2007年6月 2100円



ADHDのもろもろを紹介したマンガ。著者のあーさんは自身がADHD（注意欠陥多動性障害）。21歳の時自分が当事者であることを知るが「もっと早い時期に知れば」と思ったという。ADHDの知名度を上げたいと本書を執筆。

## 「ややこしい子」とともに生きる 特別支援教育を問う

岩波ブックレット 河原リエ/著  
岩波書店 2007年6月 504円  
「軽度発達障害」者への支援を目的とした「発達障害者支援法」。それに基づく「支援」に対する現場からの違和感を述べている。

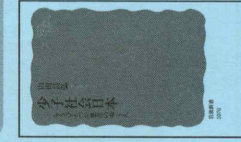
## 「いのちの授業」をもう一度

山田泉/著 高文研 2007年5月 1890円  
著者は養護教諭で、乳がんのため、この3月に退職した。11年間書きためてきた「保健室だよ」などをこのたび編集発行。里山の学校で豊かに根づいた「いのちの授業」の記録。



## 〔法律・政治・政策〕

## 少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ



山田昌弘/著 岩波書店 2007年4月 777円  
“女性の社会進出によって少子化が進んだ”とはよく使用されるフレーズだが、現在生殖可能な世代はどのような経済状態で、どんな家族観、人生展望をもっているのだろうか？若者たちの現実をおきざりにした少子化対策は本当に役立つのか、を検証している。「早く結婚して仕事をやめたい」と働く女性たちが思ってしまう社会では、かえって子どもは増えないかも。

## 差別原論 &lt;わたし&gt;のなかの権力とつきあう

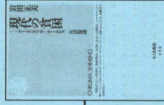
好井裕明/著 平凡社新書 2007年4月 798円  
題名からは「差別」について理論的に考察する書であるという印象をもつだろうが、ここでとりあげられているのは、「わたしのの中の差別感」。私たちが差別とどう向き合い、人と交流できるのか

## 家計研究へのアプローチ 家計調査の理論と方法

御船美智子、(財)家計経済研究所  
ミネルヴァ書房 2007年3月 4725円  
「家計」とは家族の経済関係を示すものだけではなく、「家計、企業、政府などの経済主体の間で貨幣がまわっている状況」を示すものであるという。そうした家計を分析するための方法を提示。

## 現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護

岩田正美/著 筑摩書房 2007年6月 735円  
「貧困」の問題を可視化していくということは、社会の「あつてはならない状況」を明確にし、生きやすい社会の条件を「発見」していくことだと著者は述べる。



## 現代日本の生活保障システム 座標とゆくえ

大沢真理/著 岩波書店 2007年3月 2730円  
現代日本の生活保障システムを、時系列的、国際的な座標の中に位置づけ、ジェンダー視点で分析。日本はいかに「男性稼ぎ主」型の生活保障システムに固執しているかを証明する。「社会的包摂」こそが課題解決の道だと主張。



## やさしいことばで日本国憲法

池田香代子/訳 C.ダグラス・ラミス/監修、解説  
マガジンハウス 2007年8月 1000円  
平和主義、国民主権、基本的人権の尊重などの憲法の基本理念について、英文憲法をもとに新しくわかり易く訳出。



## 指定管理者は今どうなっているのか

中川幾郎、松本茂章/編著 水曜社 2007年5月 2100円  
全国6万以上の施設に広がった指定管理者制度。07～08年には多くの指定管理者が再選定されるであろうとされているが、それだけにこの制度の「いま」を問い、検証し、「これから」を提言していく必要がある。



## 〔労働・仕事〕

## 非正規労働の向かう先 岩波ブックレット No.699

鴨嶋代/著 岩波書店 2007年5月 504円  
「誰でも入れる労働組合」(なのはなユニオン)における労働相談から見える現場の“今”を報告。こうすれば格差は是正できるという提言も。著者は全国ユニオン・ユニオンの初代会長。



## 労働の人間化とディーセント・ワーク ILO「発見」の旅

牛久保秀樹/著 かもがわ出版 2007年3月 1890円  
非正規労働者の増大、リストラ、長時間労働、パワハラなど、日本における「異常な働かせ方」は、ILOが提唱する“ディーセント・ワーク”(人間らしい労働)からみてどうなのか。労働組合のメンバーで構成された「ILO条約の批准を進める会」が、20年にわたるILO訪問と交流から得た記録を報告する。



## インパクション 158号



インパクト出版会 2007年7月 1260円  
特集は「<非正規化>する対抗の場、労働ではない『お仕事』?」。男女共同参画の施策化やセンターの設置、市民運動のNPO法人化など、女性差別に対抗する運動の主張が制度化されつつある。しかし、制度化の中でボジションを得た人とそうでない人の分離が進み、「対抗の場」は、非正規労働の場ともなりつつある。その現実をとらえ、どう進んでいくか?

## 介護・家事労働者の国際移動 エスニシティ・ジェンダー・ケア労働の交差

久場嬉子/編著 日本評論社 2007年5月 3990円  
世界中で女性たちは国境を越え、市場化した介護・家事労働の担い手として働いている。そこに見えるのは“エスニシティ”、“ジェンダー”、“ケア”をキーワードにグローバル化した市場経済のもとでの労働力再生産過程。各々の新論点から、怒涛のごとく進行するグローバル化の一面面を考察。



夢をかたににした女性たち 将来のキャリアを考えていたいあなたへ  
独立行政法人 国立女性教育会館/編 株式会社朝陽会/発行  
全国官報販売協同組合/発売 2007年3月 500円  
「ヌエック・ブツクレット5」は、将来のキャリアを考える人に向け  
た「キャリア形成事例のロールモデル集」。

## 女性のキャリアデザイン 新版 働き方・生き方の選択

青島祐子/著 学立社 2007年4月 1890円  
キャリアデザインとは、生涯を貫くものとしてキャリアを位置づ  
け、長期的視点で職業生活を考えること。本書は、現在働いてい  
る女性、これから働くという女性に向けて、キャリアデザインの  
考え方と手がかりを述べている。

## いじめ・ハラスメントと仕事のストレス 女も男も自立・平等-No.109

労働教育センター 編集部/編  
株式会社労働教育センター 2007年5月 1860円  
Part1: いじめ・ハラスメントの構造を探る Part2: 労働相談・い  
じめ相談の窓口から Part3: セクシュアル・ハラスメントをなく  
すには Part4: 仕事のストレスを軽減するために

## ルポ 正社員になりたい 娘、息子の悲惨な職場

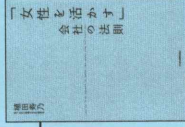
小林美希/著 影書房 2007年5月 1680円  
就職氷河期に就職できず「とりあえず派遣」になった若者たち。今  
や働く人の3分の1が非正規雇用である。こうした若者たちの職場  
をルポ。「規制緩和のしわ寄せでどうにもならなくなっている若者  
の、特に女性の声を聞け」というのが主張。著者自身「当事者」の一人  
なだけに取材ぶりは真にまわっている。

## フリーターズフリー 働けと言わないワーキングマジン

有限責任事業組合フリーターズフリー/編  
有限責任事業組合フリーターズフリー/発行  
人文書院 2007年6月 1575円  
「フリーター」に関する議論が創刊されてい  
て、こういうという雑誌が創刊された。

## 「女性を活かす」会社の法則

植田寿乃/著 日本経済新聞出版社  
2007年6月 1470円  
「男性も女性も働き続け、一緒に家庭を作り、子ども  
を育てる」という当たり前の人生観が実現できる会社  
が伸びる会社。自らの体験もふまえ、企業が陥りがちな  
な失敗例にもふれながら「女性活用」の極意を説く。



## これから大人になる10代のあなたへ セックスと愛、そして未来のすべて

ミカエラ・ビョーム/著 オットン新妻ゆり/訳 ノルディック出版/発行  
海象社/発売 2007年5月 1680円  
手探りで大人の世界に向かって進んで  
いく10代の女の子に向けて「気楽に愉快に、  
さっそうと」大人になるための方法をアド  
バイス。セックス、恋愛、仕事、将来設計…  
みんなみんな大切なこと。スウェーデンの  
10代が読んでいた本を翻訳出版。



## SEXUALITY No.32 それってデートDV!?

エイデル研究所 2007年7月 1575円  
特集は「それってデートDV!? 気づきと  
防止のために」。若者たちは「愛」と勘違い  
して、「デートDV」がおきても「暴力」だと  
はとらえないみたい。性教育に「デート  
DV」の実践を盛り込むことは急務となっ  
ている。



## 「働く女性」のライフイベント そのサポートの充実をめざして

上里一郎/監修 馬場房子、小野公一/著  
ゆまに書房 2007年4月 3675円  
キャリアと家庭のふたつの充実を得るためのメンタルヘルスに  
ついて、就職、結婚、出産、昇進などのライフイベントに配慮しつづ  
論じている。

## やりたい仕事で幸せになる! 名古屋女性・起業独立100の物語

ウィメンズドリームプロジェクト/著 あざ出版 2007年4月 1470円  
名古屋を中心に起業した100人の女性たちのストーリー。

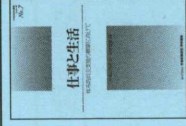
## 私だって働きたい! 「女性力」パワーアツ プ実践ガイド

小澤佳代子/著 ヴィヴィル 2007年5月 1400円  
自分らしく働きたい、ステッパアップしたい、再就  
職したい、子どもを育てながら働きたい...という願  
いかなえるためのアドバイスブック。



## 仕事と生活 体系的両立支援の構築に向けて

労働政策研究・研修機構/編  
JILPT 2007年4月 2100円  
労働政策研究・研修機構が3年半にわたって取り組  
んだ両立支援構築のためのプロジェクトの報告。終  
章では仕事と生活の総合的両立支援について政策  
提言も。

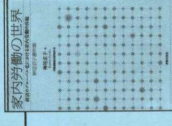


## 働さざる若者たち 「自分探し」の果てに

阿部真大/著 日本放送出版協会 2007年5月 735円  
就職氷河期に社会に出ることになった、現在25歳〜35歳のロスト  
ジェネレーションの若者たち。「好きを仕事に」の世代でもある。本  
書はケアワーカーの実態調査をもとに、「好き」と「不安定雇用」が結  
びついた状況が行き着く矛盾をえぐっている。

## 家内労働の世界 神尾京子著作集 経済のグローバル化に おける家内労働の再編

神尾京子/著 労働運動総合研究所/編  
学習の友社 2007年5月 3150円  
家内労働に関する研究者であり、家内労働者地位  
向上にむけた実践者でもあった神尾京子氏(2006年  
逝去)の著作集。長年にわたる「女性白書」の執筆者の  
一人でもあった。



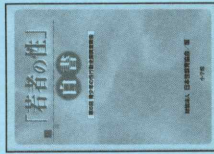
## いま「生きる底力」を子どもたちに! 性教育 バッシングに物申す

河野美代子/著 十月舎/発行  
星雲社/発売 2007年7月 1365円  
「いのちと生」をテーマに活動してきたパ  
イオニアが、性教育バッシングの吹き荒れ  
る中、あえて発言。「知らない」ゆえに傷つい  
ていく子どもたちを一人でもなくそうと、  
「性教育はすべての子どもたちにもたに受ける権  
利がある」と説く。



## 「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告

財団法人日本性教育協会/編 小学館 2007年6月 2100円  
1974年からほぼ6年ごとに定期的に行わ  
れてきた青少年の性意識、性行動に関する  
報告書。メディア、性教育などの情報などのDV  
のような行動に結びつくのか、若者間での若  
者たちについてなど、中学生から大学生までの若  
者たちの30年間にわたる変化と実態が多数  
的にまとめられている。



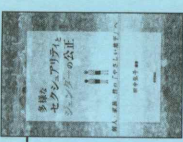
## ある一族の愛と性 1843～2006 そのDNAを探して

北沢杏子/著 現代書館 2007年5月 1260円  
16才の女子高生北斗圭とその祖母タマちゃん、自らのルーツや「DNA」に組み込まれた「愛と性」を語っている。日本の性教育のパイオニアで「性を語る会」代表で脚本家でもある著者の「それまで」がまままっている。フィクションとノンフィクションの入り交じった作品。



## 多様なセクシュアリティとジェンダーの公正 個人・家族・性の「やさしい地平」へ

田中弘子/編著 明石書店 2007年6月 1260円  
多様なセクシュアリティを認め合い、ジェンダー平等な社会をめざすためのテキストブック。それぞれの家族、個人を互いに認め合うことのできる「やさしい」社会をつくるために。



## 〔セクハラ・暴力〕

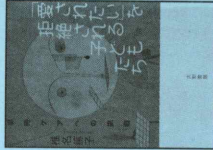
## 切除されて

キャディ/著 松本百合子/訳 ヴィレージブックス/発行  
ソニー・マガジン/発売 2007年5月 1470円  
7才で性器切除をうけ、13才で見知らぬ男と結婚させられた著者が半生をつづった書。現在はベルギーに娘4人と住み、女子性器切除廃絶に向けた活動のヨーロッパ代表をしている。本書はフランスでベストセラーになったという。



## 「愛されたい」を拒絶される子どもたち 虐待ケアへの挑戦

椎名篤子/著 大和書房 2007年7月 1785円  
「大人になった被虐待児」たちは、様々な生きにくさを感じている。虐待を受けた子どもたちを放置せず、心の傷を回復してもらわなければならない。どう癒したらいい？  
本書はベンギンハウスやあすなろ学園などの事例を紹介し、子ども虐待ケアの道を探っている。



## 戦争と性 韓国で「慰安婦」と向きあう

高柳美和子、岩本正光/編著  
かもがわ出版 2007年8月 1575円  
最初に掲げているのは、韓国作家の「慰安婦」に関するマンガ。そのあと、「ナヌムの家」の訪問記、「慰安婦」をとりあげた高校の授業の記録、戦場の兵士のセクシュアリティの考察が並ぶ。日朝協会と“人間と性”教育研究所の共同企画の本。



## 性犯罪から子どもを守る メーガン法の可能性

松井茂記/著 中央公論新社 2007年3月 882円  
性犯罪の住所氏名の公表を義務づける法律として注目されるメーガン法。日本政府は導入に消極的だ。導入は無理なのか、課題は何かを検証。

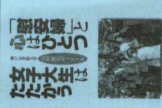


## 告発く従軍慰安婦&gt;

琴乗洞(クム・ビョンドン)/著 同時代社 2007年5月 1575円  
90年代からようやく告発されはじめた「従軍慰安婦」の問題。現政権は、その積み上げを否定しようとしている。本書では、発掘された「従軍慰安婦」に関する資料、証言、写真などを開示、考察。動かぬ証拠として呈示する。

## 子どもたちに寄り添う

坪井節子/著 いのちのことば社 2007年4月 1365円  
弁護士でクリスチャンの著者が、子どもの人権救済センターや、10代の子どものためのシェルター、自立支援ホーム運営などの経験をもとに、傷ついた子どもたちの実態を描く。

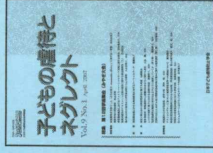


## 「慰安婦」と心はひとつ 女子大生はたまたかう

神戸女学院大学石川康宏セミナー/著  
かもがわ出版 2007年6月 1050円  
神戸女学院大学の学生たちが慰安婦について学

## 子どもの虐待とネグレクト Vol.9 No.1

日本子ども虐待防止学会/編  
金剛出版 2007年4月 2100円  
子ども虐待防止をめざし、医療・保健・福祉・教育・司法・行政などの実践者、研究者が会する「日本子ども虐待防止学会」の学術誌。今号の特集は「第12回学術会議」の報告。多方面からの報告がてんこもりに並ぶ。



## まんが「慰安婦」レポート① 私は告発する

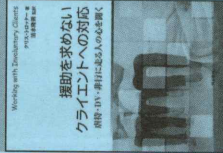
チョン・ギョンア/著 山下英愛/訳  
明石書店 2007年7月 1400円  
「漫画を通して真実を見極める」という趣旨で刊行が始まった全三巻シリーズの第一巻目。韓国で評判になった本の邦訳である。第一巻目は日本軍「慰安所」の歴史を扱っている。著者のチョン・ギョアンは、韓国の漫画家。若者たちに「反省的な歴史の読みかえ」をしてほしいという思いで描いたという。自国中心の歴史教育を受けている日本、韓国両方の若者たちに。



## 援助を求めないクライアントへの対応

虐待・DV・非行に走る人の心を開く

クリス・トロッター/著 清水隆則/監訳  
明石書店 2007年4月 2940円  
援助されることがに興味をもたない人、問題をもつことすら認めない人に対して、どのように働きかけ、相談をすすめていったらいいのか。



び、さらに問題解決に向けて講演活動を行っている。「慰安婦」という言葉すら知らなかった人といった彼女たちの内実の変化が座談会をとおして語られている。

## 権力と暴力 シリーズ・アメリカ研究の越境 第2巻

古矢旬・山田史郎/編著 ミネルヴァ書房 2007年6月 3675円  
多種多様な暴力的紛争に直面し、手をそめているアメリカの「権力と暴力」の相克はどのような形をとるのか？ 第10章で藤森かよこは「アメリカのフェミニズム」と「暴力」について分析。

## セクシュアルハラメントをしない、させないための防止マニュアル

青木孝/監修 小学館 2007年6月 1575円  
セクシュアルハラメントとパワーハラメントについてケースを取り上げ、基準のポイントを解説している。解決方法もあり、人事管理責任者、被害者どちらにも参考になる。

## 「慰安婦」問題とは何だったのか メディア・NGO・政府の功罪

大沼保昭/著 中央公論新社 2007年6月 861円  
1990年代以降「歴史認識」の争点となった「慰安婦」問題。国家関与を否定する右派と、国家賠償を要求する左派、メディア、NGOのはざまで償いは難航し、決着をみえない。本書では解散したアジア女性基金でこの問題に取り組んだ著者が、「慰安婦」問題の歴史構築を試みている。

## DAYS JAPAN 8月号

広河隆一責任編集 (株)ディズ・ジャパン 2007年7月 820円  
特集は「14才のための日本国憲法」。他に「拒食症と戦う女性」や「廃業にさらされる助産院」の記事など、読ませる。

## 笑顔を取り戻した女たち マイノリティ女性たちのDV被害—在日、外国人、部落、障害—

東京自治研究センター・DV研究会/編  
パド・ウィメンズ・オフィス 2007年6月 1680円  
被差別部落、在日韓国人、障がいをもつ女性というマイノリティ女性たちのDV被害の実態と、求められる支援のあり方を明らかにすることを目的として行われた個別インタビュー調査の分析をまとめたもの。マイノリティ女性のDV被害という二重三重の差別構造を「可視化」しようと試みている。

## 虐待記 愛されなくても母を愛しつづけた子

クリスチャン・フェンゾノ/著 松永リネ/訳  
主婦の友社 2007年8月 1680円  
母親からは認められず、義父から暴力を受けて育った著者。それでも母の愛を得るために、著者は必死で生きた。フランスで発表されベストセラーになった本。

## 戦争と性 第26号

「戦争と性」編集室/編 「戦争と性」編集室/発行  
2007年7月 1575円  
今号の特集は「性暴力—何が問われているのか」。「ポルノグラフィと性暴力」(中里見博)、「男たちが今、問われているもの」(金子雅臣)など。



## 〔文学・エッセイ・芸術〕

## オンナらしさ入門(笑)



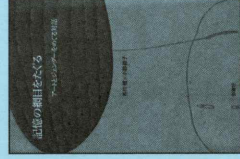
小倉千加子/著  
理論社 2007年4月 1260円  
「おんなの子」は何でできている? 「おさ」とうとスバイスと、すてきななにもかも、そんなもんでもできている(マザーグース)。でも、「オンナらしさ」は、本当はイバラの道なのだ。これを読んで考えてみてね、あなたがいる場所の「本当の意味」を教えます。

## ワーキングプアの反撃



雨宮処凛、福島みずほ/著  
七つ森書館 2007年7月 1365円  
24才以下の2人に1人が非正規雇用の時代。安易な「若者バッシング」に乗るのはやめよう。ワーキングプアよ、反撃しよう。自ら命を絶つことはやめよう。

## 記憶の網目をたぐる アートとジェンダーをめぐる対話



香川檀、小勝禮子/著 彩樹社/発行  
星雲社/発売 2007年6月 2625円  
表象文化論、ジェンダー論の研究者と美術館学芸員である二人の女性の往復書簡と論文集。決してメジャーとはいえない女性性作家たちの作品、表現をうけとめ、女性の経験や視点を読み解いている。自ら手がけた、取材先で見つけたたりした作品群や企画の中に、様々なジェンダー視点からの背景を読み取り、考察している。

## 君死にたもうことなかれ 与謝野晶子の真実の母性

茨木のり子/著 童話屋 2007年4月 1313円  
著者の死後1年を契機に刊行された「詩人の評伝シリーズ」第3巻は、与謝野晶子について。

## すぐわかる女性画家の魅力

千足伸行/著 東京美術 2007年5月 2310円  
ルネサンス、バロックから写実主義、印象派を経て現代に至る絵画の世界で傑出した女性の画家たちの生涯や作品を紹介。女性ゆえの困難に直面しながら描き続けた画家たちが、こんなにもたくさんいたのだ。

## 愛の迷路 サランエミロ

萩レイ子/著 新幹社 2007年4月 1890円

## モナリザは妊娠中? 出産の美術誌



中川素子/著 平凡社 2007年4月 903円  
人類が生まれてから現代までの長い歴史を形づくってきたのは、途切れることのない妊娠、出産、誕生という「生命の連鎖」。本書には美術作品を中心にすえて「生命の連鎖」を扱った18のエッセイが登場する。出産の美術は、時代や視点の違いにより、こうもいろいろに考えられるのだ。

## 女(ONNA) 中原秀明+船元康子写真集

中原秀明、船元康子/著 新宿書房 2007年6月 3990円  
ベトナムに住む山岳少数民族の女性たちの写真集。息をのむような派手で美しい民族衣装を身につけ、農耕や子育て等の日々の仕事をこなしている。中原、船元は夫婦で何回もベトナムを訪れ、少数民族の写真を撮り続けた。これまでの写真を撮れるようになるまでに、現地の女性たちとどのくらいの交流をしたのだろうか。

## アメリカ・マイノリティ女性文学と母性 キングダストン、モリスン、シルコウ



杉山直子/著 彩流社 2007年6月 2940円  
現代アメリカを代表する3人のマイノリティ女性作家の作品を「母親言説」を軸に分析。1970年代に作家として登場し、高い評価を得ているキングダストン、モリスン、シルコウの3人にとって、「母親の声で書くこと」と重要な手法なのだということを論じている。

東大阪市出身の萩レイ子の詩集。父の国、韓国への想いをうたいあげる。

## カチャ・クルマン32歳 産まないって、決めたわけじゃなく...

カチャ・クルマン/著 たかおまゆみ/訳  
新水社 2007年5月 1575円  
30代以上、未婚、子なし...カチャ・クルマンは、ドイツの「負け犬」。高い教育を受け、「自由」を知る「フェミニズムの申し子」。それなのになぜ「本当の幸せ」がつかめない? どうしたらいい?



## 歳月

茨木のり子/著 花神社 2007年2月 1995円  
夫に先立たれてから31年間、茨木のり子は夫への想いを綴った詩

をかきため、出版する前の推敲まですませている。今回出版されたのは、作者の遺稿を甥が整理したもの。夫に対する妻の静かな愛。

## 柳美里 現代女性作家読本 8

川村湊/編 鼎書房 2007年2月 1890円

## 山田詠美 現代女性作家読本 9

原善/編 鼎書房 2007年3月 1890円

## ロマン主義から石牟礼道子へ 近代批判と共同性の回復

岩岡中正/著 木鐸社 2007年2月 3150円  
市民革命、産業革命、功利主義という「近代化」への根源的批判原理としてのロマン主義をのべ、「近代化」の極限ともいべき水俣病の災禍から「近代」をこえる人間回復の道筋を志した石牟礼道子の脱近代の思想を考察している。

## ただのデブでは終わらない 小さな町が育んだ大きな女の子のストーリー

高木省一/著 グラフ社 2007年3月 1260円  
相撲の世界選手権で銅メダルに輝いた14歳の女子相撲日本代表の物語。体重120kgにコンプレックスを持ち、自己表現できなかつた少女が、相撲によってかわっていく。

## 女優二代 鈴木光枝と佐々木愛

大笹吉雄/著 集英社 2007年5月 2730円  
母と子という関係で、二人とも文学座の代表的女優である鈴木光枝と佐々木愛。二人とも女優として、母、娘として、妻として波乱万丈の人生を送っている。本書で描かれているのは二人の生き様や母子関係。創立60周年を迎える文学座を窓としてみた日本の演劇史でもある。

## 書く女たち 江戸から明治のメディア・文学・ジェンダーを読む

北田幸恵/著 学藝書林 2007年6月 3150円  
江戸末期から明治初期、日本の近代が夜明けを迎えたところ。只野真恵、清水紫翠、樋口一葉らの女性表現者たちは多くの漢詩、評論、日記、小説を残している。女性たちは何を表現しようとし、どう読まれたのか。

## 桂昌院 藤原宗子

竹田真砂子/著 集英社 2007年3月 1995円  
京での貧しい公家暮らしから、三代目將軍徳川家光の側室となり、五代將軍綱吉を生んだ桂昌院藤原宗子の生涯を描いた長編小説。

## 現在と性をめぐる9つの試論 言語・社会・文学からのアプローチ

小玉亮子/編著 春風社 2007年6月 1890円  
日本語では、ジェンダー、セックス、セクシュアリティと多様な言葉で言い換えられる「性」。本書では様々な「性」をめぐっての9つの小論が並ぶ。「現在の性」の複雑な状況がうかがいあがってくる。

## 母親に向かない人の子育て術

川口マーン恵美/著 文藝春秋 2007年5月 745円  
ドイツで夫の手助けもなく娘3人を育てた著者。子育ては、母親が一番楽なようにやるべきだという子育て論。「自分に無用な負担を強いらないこと」がコツだそう。

## ずっと好きなこと そして女性クリエイター8人は生まれた

マカナブツク/編 マカナブツクス/発行  
新宿書房/発売 2007年7月 1680円  
さまざまな道を経て「好きなこと」を仕事にしたクリエイター8人の生き方がつづられている本

## 小美代姐さん愛縁奇縁

群ようこ/著 集英社 2007年7月 1470円  
人気芸者小美代の物語。持ち前の明るさで、元氣いっぱい人生を生き抜いていく。

## 女ですもの

内田春菊、よしもとはばな/著 ポプラ社 2007年7月 1470円  
売れっ子漫画家と作家が、男・結婚・子ども・家族について語る。二人の共通項は事実婚で子どもを産んだということかもしれないが、生き方そのものは全く違う。テンポよくフェエ的対話が楽しめる。

## 藤原古志子

藤原互/編 ドメス出版 2007年5月 3150円  
2006年にガンで逝った彫刻家藤原古志子の作品集。地域共同体や地球環境、子どもについての社会への働きかけにも熱心で仕事にも現れていた。東京ウィメンズプラザにおかれているワサギがレストランの地球亭で農業まみれの食事をしている彫刻「本日の定食」(1995年)に接した方は多いかも。

## シャーロット・ブロンテの世界 増補版 父権制からの脱却

白井義昭/著 彩流社 2007年5月 2940円  
「ジェイン・エア」のイメージから「平凡なメロドラマ作家」だと誤解されがちなシャーロット・ブロンテであるが、ヴィクトリア時代という父権制の中で必死に生きた女性たちを描いた作家であると著者。

## アジア系アメリカ作家たち

杉浦悦子/著 水声社 2007年5月 2940円  
アジア系である4人のアメリカ女性作家の作品、作家分析の書。4人ともアジア系としてデビューしながら、アジアにはこだわらず世界に向かって書いていくという。しかしアジア系としての出自はしっかり持っているとも。

## 花降り

道浦母都子/著 講談社 2007年5月 1890円  
歌人 道浦母都子の初めての小説。テーマは「愛」。美しい恋愛小説である。

## 悪あがきのすすめ

平淑玉/著 岩波書店 2007年6月 735円  
弱肉強食の強迫観念に満ちた現代社会。「弱いこと」は「さげすまれるべきこと、すなわち悪」とされる。ならば、「悪あがき」をしよう。世の中に抗って、ジタバタと、あきらめずに、意思を貫こう。

## 70代三人娘、元気の秘訣

俵須子 吉武輝子 樋口恵子  
講談社 2007年7月 820円  
戦中に育ち、大苦難の日々も、大病も、夫との別れも超えて、人生を堂々と歩んできた3人の猛女が集まって語った本。3人のパワーはすごい。高齢期に入った3人は、病気を抱えてもなんのその、まだまだすることがあると意気軒昂。お手本のない超高齢社会を生き抜く自信をもたせてくれる。



コラール

車 膏子

## 旅する名前

太田次郎社エディタス  
1890円 2007年8月

望んだわけではないのに、自分の名前がくるくる変わり、場所によって、状況によって、呼ばれる名前がそれぞれ違う…こういう気持ちって、どんななのだろう。

著者は、「在日」のこうした生活を声だかに抗議してはいない。でも、本書は、私たちが日本人には、「隣人」の生活について、「気がつかなくってはならないこと」があるのだということを、教えてくれる。(M)

## 【こころ・癒し】

母に心を引き裂かれて 娘を苦しめる＜境界性人格障害＞の母親

クリスティーズ・A・ローソン/著 遠藤公美恵/訳  
とびら社/発行 新曜社/発売 2007年4月 2625円

母に心を  
引き裂かれて

「境界性人格障害」とは、正気と精神障害のはざまにある人格障害で、ずばぬけて「普通」の障害だという。傍目にはわかりにくく、であるが故に身近にいる人程まきこまれやすい。境界性人格障害の母のもとに生まれた娘は、深い傷を負うことになりやすいという。

母親が子どもに抱く罪障感の心理学的研究

石野陽子/著 風間書房 2007年3月 6825円

「ああしなれば良かった」「もっと、こうできた」など、母親というものは程度の差はあれ、「後悔」したくなるもの。そんな母親の罪障感を分析。著者の学位論文を加筆訂正したもの。

知らずに他人を傷つける人たち モラル・ハラスメントという大人のいじめ

香山リカ/著 KKベストセラーズ  
2007年2月 714円

「モラル・ハラスメント」とは職場や家庭での「いじめ」のこと。「モラハラ」「ババハラ」と続いているので「そんなにリビリしなくても」という反応もあるように聞くが、細かいことが日常的に積み重なる点で深刻さ増すという。

「悩み」の正体

香山リカ/著 岩波書店 2007年3月 735円  
深刻な病を引き起こす“悩み”。そんなに悩むのは「弱いからだ」とは言い切れない現代社会の心の問題を、人間関係・仕事・恋愛などのケース別に取り上げている。

アディクションと家族 Vol.24 No.1 嗜癖する社会

家族機能研究所/編 ヘルスワーク研究会 2007年6月 1680円  
特集は「嗜癖する社会」。「DV犠牲者」との「別れ」(堀川百合子)。「激増するギャンブル依存症の社会的背景」(春木進)ほか

ココロの日にち薬 メンタルクリニックに行く前に読む本

富士田富士也/著 十月舎/発行 星雲社/発売 2007年6月 1365円  
“日にち薬”とは「日数が薬になって、客観が解決したりすること」。ココロの悩みを抱えた人が本書を読むと、ジワジワ効いてくるはず、と著者。

図解 自分の気持ちさをきちんと伝える＜技術＞

平木典子/著 PHP研究所 2007年6月 1260円  
「アサーション」とは、違いを認め、気持ちよいコミュニケーションを

占領と性 政策・実態・表象

恵泉女学園大学平和文化研究所/編  
インパクト出版会 2007年5月 3150円

アメリカのイラク攻撃の際、成功した占領モデルとしてあげられた日本占領。しかしあの占領は本当に良い占領だったのか。GHQの性政策からみて、それはどうだったのか。



女と子どもの王朝史 後宮・儀礼・縁

服藤早苗/編 森話社 2007年4月 3045円  
政治や権力構造の解明が「歴史」の主流になっているが、本書で扱うのは「女・子ども」の歴史。第1部では「後宮」で確かな足跡を残した女性たちを、第2部では儀式の中の女・子ども、第3部では、家の親族

女性心理療法のためのQ&A

岡野憲一郎/編 心理療法研究会/著  
星和書店 2007年7月 3045円

心理療法家が治療中に体験するとまじいや疑問についてQ&A方式でまとめている。「クライアントから公園に行きませんかとさそわれたら?」「女は頼りないと言われたら?」など、女性療法家が多く持つ悩みを質問としてあげ、いくつかの答えを用意している。



交わすこと。「聴くこと」と「話すこと」を通じて、自分と相手に相互「作用」をおこすこと。図解入りで、わかりやすく、ていねいに書かれている。

自傷行為治療ガイド

B・W・ウォルシュ/著  
松本俊彦、山口亜希子、小林桜児/訳  
金剛出版 2007年3月 3940円

日本でも米国でも、有能な若者たちの間で自傷行為が増えており、無視できない問題になっている。その本書は、自傷行為の治療に取り組み専門家に向けた手引書だが、自傷行為者の周りにいる人々にも役立つそう。

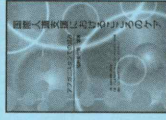
保育士のメンタルヘルス 生きいきとした保育をしたい!

重田博正/著 かもがわ出版 2007年3月 1470円  
高度成長期の60年代後半～70年代の保育所拡大期につづき、最近また、保育士の心身の健康問題が深刻化しているという。その背景は、保育の市場化、入所枠の拡大、地域の子育て支援推進に伴う課題の発生等にあるとか。保育士の健康を脅かさず、生きいきとした保育を続けるにはどうしたらいいか。



国際人道支援におけるこのケア アフガニスタンでの試み

河野貴代美/編著 新水社 2007年6月 2520円  
お茶の水女子大学、開発途上国女子教育協力センターにおける研究成果の報告。同センターが行ったアフガニスタン女子教育支援においての女性や子どもに対するトラウマ治療のガイドラインが出版された。まだまだこれから積み上げていくべき分野での貴重な第一歩。



家族支援の心理教育—その考え方と方法 家族心理学年報25

日本家族心理学会/編 金子書房 2007年5月 3150円  
「心理教育」とは、「問題や疾患をめぐる心理に配慮した教育」のこと。「総論」で心理教育アプローチの動向や課題をのべ、各論で子育て、親支援、怒りのコントロールについてなどのテーマでの小論を並べている。

中国女子教育史 古代から一九四八年まで

崔淑芬/著 中国書店 2007年5月 7140円

古代から近代を経て中華民国時代に至るまでの中国の女子教育の考察から、女性の生き方、生活状況を追っている。中国の学制の歴史は古い。辛亥革命以降の中華思想にアメリカの実用主義思想、日本の国家主義思想を取り入れられた女子教育など、時代の影響をうけつつ変遷していく様は興味深い。



関係の中での「女・子ども」を扱っている。

「あの戦争」を語り継ごう I あご5311号

あごら新宿/編 BOC出版 2007年5月 1890

## 中央区女性史 通史 いくつもの橋を渡って

中央区、中央区女性史編さん委員会/編  
ドメス出版 2007年3月 1995円  
東京都中央区の男女共同参画事業の一環としてつくられた本書は、地域女性史として貴重なものである。「通史」は編さん委員会の指導をした女性史研究者の江刺昭子氏が執筆している。

## 中央区女性史 聞き書き集 いくつもの橋を渡って

中央区、中央区女性史編さん委員会/編  
ドメス出版 2007年3月 1575円  
「聞き書き集」では、中央区ゆかりの48組55人の女性からの聞き取りを編さんした文章が並んでいる。

## 華族家の女性たち

小田部雄次/著 小学館 2007年4月 2310円  
日本の華族家の系譜、親戚関係を網羅的に調べている。明治、大正、昭和という激動の時代、華族として生まれた女性たちはどのようなして生きたのか。“近代”を体現する女性として、男系の支えとして、没落者、逸脱者として時代に翻弄されつつ強く生きる姿が生々しく展開されている。

## 娘に伝えたい ティーンズの生理&amp;からだ&amp;ココロの本



対馬ルリ子、種部恭子、吉野一枝/著  
かもがわ出版  
2007年5月 1575円  
女性が自分で考え選択するために、体のことと生理のことに関する正確な知識は、力強い味方になるはず。

## 流産の医療 仕組み、治療法、最善のケア

ジョン・コーエン/著 藤井知行/監修 谷垣曉美/訳  
みずす書房 2007年5月 3150円  
流産はなぜ起こるのか、どのような治療法があるのか、妊娠にとって何が最善か、などの基礎的知識と様々な具体例、最新治療とその考察等がまとめられている。やや大部で読むのに時間がかかるかもしれないが、当事者にとって、真に力になりうる一冊。



## 図解女性だから気になる病気 セルフチェックでからだのSOSに気づく!

井尾裕子/監修 PHP研究書 2007年4月 1365円  
女性になりやすい病気について解説。「セルフチェック」が重要

## 妊娠から始める自然流産

NPO法人自然流産児友の会&ほんの木/共編  
よこはま自然育児の会/協力 ほんの木 2007年4月 1575円  
「自然なお産」の実現にとりくんできたNPO法人が、出産を決めた女性が自信を持って産めるように、自然流産児をすすめている。

## 乳がん安心! 生活BOOK 治療にいちばん知りたい生活情報とアイデア

がん患者サービスマス・ジョン・TODAY編集部/編著  
(有)VOL-NEXT 2007年2月 2415円  
編著の「TODAY」とは、乳がん患者の生活全般をサポートするセッション。乳がん患者自身が運営している。大判、カラー刷りの本書では、医療や生活のこと、下着、かつら、治療費、心のケアに至るまで、あらゆる側面からの情報を、写真・イラスト入りでわかりやすく提供。

## 産前・産後のからだ革命 安産とキレイの秘密

吉岡マコ/著 青春出版社 2007年5月 1470円  
出産にともなう体の変化に対応する運動・セルフケアを紹介。出産による体の悩みコナーもある。

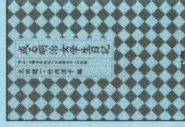
## 年表 近代日本の身装文化

高橋晴子/著 三元社 2007年4月 7770円  
身装について、明治元年(1868年)～昭和20年(1920年)の同時代の膨大な資料をまとめた年表。生活の中で身装がどのようなようになっていったか、社会に大きな影響を与えた事件や現状などを組み込み、身装文化の変容を実感させる。



## 或る明治女学生日記 岡山・山陽女学校生「石原登女子」の記録

太田健一、竹内涼子/編 吉備出版  
2007年3月 1890円  
岡山県に今もある山陽女子高等学校を明治期に卒業した石原登女子の明治28年から31年にわたる4年間の日記。明治期の女学生の生活、岡山の様子が巻物のように展開されていて、大変興味深い。



## 女性史学 2007年 第17号

女性史総合研究会女性史学編集委員会/編  
女性史総合研究会女性史学編集委員会 2007年7月 1575円  
「廃娼運動への女性の参加と周縁化」(林葉子)、「縮緬業で働いた女たち」(北野裕子)など

## 〔からだ〕

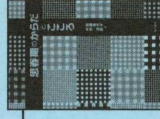
助産婦さんに聞いた いのちにやさしいお産  
(増補改訂版) 性の解放を願って女から女へ

駒井英子/著 自然食品社 2007年6月 1785円  
北海道石狩市を中心にした助産婦さんの聞き書きがもった本。著者自身の大病院と助産院での二度のお産経験から生まれた。地域の総合医療担当として、出産に人間的な介助をしていた助産婦たちに再び光があたろうとしている。初版から10年を経て、このたび増補改訂版が出版された。



## 思春期のからだところ

岩瀬佳代子、中村道彦/著  
金子書房 2007年6月 1785円  
スクールカウンセラー・精神科専門医である著者が、思春期の子どもたちやその親、先生に向けて、性についての正しい知識や心のもやもやについてまとめられている。



## ウーマンズヘルス 女性のライフステージとヘルスケア

久米美代子、飯島治之/編著  
医歯薬出版株式会社 2007年3月 3360円  
“女性の生涯を通じて健康”を考える上で、必要なライフステージでのヘルスケア、病気の特徴などをわかりやすく書いている。また心に関する問題、自然医療にもページを割いている。



## 女性に劇的、漢方薬③

益田総子/著 同時代社 2007年7月 1680円  
漢方薬を紹介する本ではない。世の中がガラガラと悪い方向へ流れていっている今、はじかれていく女性たちがどんなに多いことか……。そんな状況によりそってきた著者(漢方を導入している医師)が、それぞれの女性たちの症状と漢方治療について考察している。このシリーズ3冊目。



## 助産師と産む 病院でも、助産院でも、自宅でも

河合蘭/著 岩波書店 2007年7月 504円  
マタニティケア全体を見直す時期にきている。助産師をもっと表舞台に出し、主体的なお産を進める手助けをしよう。



## 〔高齢・福祉〕

## 男性介護者白書 家族介護者支援への提言

津止正敏、斎藤真緒/著 かもがわ出版 2007年9月 2100円

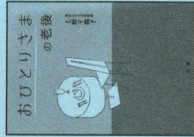
今や、家族介護者の4人に1人が男性だとか。著者たちは、男性介護者をめぐる実態調査を実施。様々な課題を抽出し、著者自身の介護体験も背景に、「介護の社会化」と家族介護の関連性を深めていこうとしている。豊富なデータで説得力あり。



## おひとりさまの老後

上野千鶴子/著 法研 2007年7月 1470円

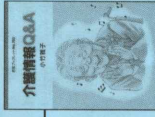
結婚した人もしなかった人も、だれでも最後は「おひとりさま」。だってたら、「ひとり暮らし」ノウハウをしっかり身につければ、「おひとりさまの老後」を楽しもう！



## 介護情報Q&amp;A

小竹雅子/著 岩波書店 2007年5月 735円

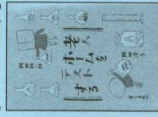
2006年4月に改訂された介護保険法をわかりやすく、使いやすくするため、市民の立場から説明している。



## 老人ホームをテストする

岡田耕一郎、岡田浩子/著 暮しの手帖社 2007年5月 1785円

介護保険法が成立し、様々な制度が生み出されているが、「かいご」は随所にあると著者は言う。どの方向に向かったらいいのか、思い込みや机上論を捨て、現状と正確に把握していこうというのが本書の趣旨。その把握をもとに老人ホームのテスト(評価)に生かしていこうとしている。



## フリーダ・カーロ 歌い聴いた音楽

上野清士/著 新泉社

2007年7月 2100円

怪我により車椅子生活を強いられながら絵筆をとり続け、人々に大きな印象を与えたメキシコの画家フリーダ・カーロ。本書はフリーダが歌い聴いた音楽や生活した街を縦糸に、トロツキやなどの男たちとの恋を横糸にして、伝説の画家の生を描き出した力作。



## 森岡ママは今日も笑顔で丘の上 97歳の青春を生きた

森岡まさ子/著 講談社 2007年2月 1680円

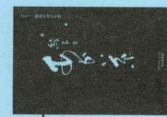
表紙にあるとびっきりの笑顔とつやつやした膚、きざまれたシワ。「97歳の青春」にびびったりの顔だ。戦争をのりこえ、広島で民間初のユースホステルを設立した著者の、とびっきりの前向き人生。

## 森川和代が生きた旧「満州」、その時代 革命と戦火を駆け抜けた青春期

森川忍/著 新風舎 2007年4月 1575円

1944年、戦局厳しい中15才で旧「満州」に渡り、激動の青春を生きた女性翻訳家の半生。

綾子とあかい糸 コシノ三姉妹の母の生涯  
さとうひさえ/著 文化出版局 2007年6月 1365円  
世界的ファッションデザイナー、コシノ三姉妹を育て上げた小篠綾子の人生。残された娘たち三人が企画し、綾子に近い存在だった著者が書き上げた。日本の洋装史の生き字引のような人だったのだ。



## 介護保険徹底活用術 これから介護が始まるあなたのために

熊野以素/著 かんぽう 2007年6月 900円

「徹底活用」という言葉に著者の思いが詰まっている。建前や役所の都合ではなく、利用者の立場で「介護保険を使いこなす」ためのノウハウの修得が必要だと3人の親を介護した著者。介護保険法研究のために大学院にも行き、市長選にも立候補。現在も高齢者福祉の市民活動を続けている。



## 超高齢社会は高齢者が支える 年齢差別を超えて創造的若いエイジズム

藤田綾子/著 大阪大学出版会 2007年4月 1680円

日本の「高齢者(像)」は「エイジズム」によって高齢者を社会から隔離、排除する流れから、「プロダクティブ・エイジング」=高齢者を社会に取り込んでいこうという流れにかわっていると著者。

## Q&amp;A 高齢者虐待対応の法律と実務

池田直樹、谷村慎介、佐々木育子/著

学陽書房 2007年7月 3360円

平成18年4月に施行され一年が経過した高齢者虐待防止法。今、それに基づいた施策が展開されているが、その取組にはまだまだ改善の余地がありそうだ。本書は支援センターの職員やボランティア、地域の専門職等、高齢者に関わる人々の必読書。



## 在宅ターミナルケアのある暮らし 住みなれたまちで家で終わりたい

西條節子/著 生活思想社 2007年8月 2310円

「自立と共生」を合い言葉に、開かれた地域で気の合う高年男女で暮らす高齢者グループリビング「COCO湘南台」からの報告。



## 〔自伝・評伝〕

## レイチェル・カーソン



上岡克己、上遠恵子、原強/編著  
ミネルヴァ書房 2007年5月 2625円

作家で生物学者であったレイチェル・カーソンの生誕100年を記念し、彼女の思想、評価、著作物、そして未来に向けて、多角的に紹介している。科学者としても文学者としても偉大な業績を残した女性をもっと多くの人に知ってもらいたい。

## マリリー・キュリー フラスコの中の闇と光

B・ゴードルスミス/著 小川眞理子/監修

WAVE出版 2007年5月 2520円

輝かしい業績と逸話によって、また苦難にみちた生涯ゆえに、マリリー・キュリーを知らない人はいない。しかし偶像化ゆえに、実のキュリーの心の軌跡や生の喜びが苦しみ、断固たる反骨精神はどちらかというと世に表れていないのではないか。「キュリー夫人」という神話に隠された人間らしいマリリー・キュリー像をうかがいがらせたいと著者。



## 木暮実千代 知られざるその素顔

黒川鍾信/著 NHK出版 2007年5月 1995円

木暮実千代といっても、一定年齢以上の人しか知らないかも。日本映画の黄金期を支えた人であるが、その人生、まるでドラマのようだったのだ……と初めて知った。著者は木暮実千代の甥。



## 〔戦争・開発エコロジー〕

## 『女性自身』が伝えたアメリカの戦争 ベトナムからイラクまで



松田優・寺坂有美/編著 藤原聖子/監修  
 大正大学出版会 2007年5月 2940円  
 『女性自身』という「女性を対象にしたメディア」でベトナムからイラクまでのアメリカの戦争はどのように伝えられたのか。女性読者はどのような記事を読みたかったのか。「戦争」のようなテーマはそぐわないイメーজのある女性週刊誌であるが、それをテキストとして「戦争報道」を読み解くと、いろいろな事実が見えてくる。大正大学の学生の卒論がもとになって本書が生まれた。

## 図説 着物柄にみる戦争

乾淑子/編著 インパクト出版会 2007年7月 2310円  
 着物における「戦争」というイメージを扱っためずらしい本がでた。日清戦争から15年戦争敗戦までの着物柄モチーフとその解説が記されている。日清戦争、日露戦争、子ども柄、東郷元帥柄、爆弾三勇士、新聞報道と戦争柄など、写真とその解説。分析から見えてくる「日本の戦争」図の興味はつきない。



## おいしいハンバーガーのこわい話

エリック・シュローサー、チャールズ・ウィルソン/著  
 宇丹貴代実/訳 草思社 2007年5月 1365円  
 毎日、何億という人が深く考えずに食べているハンバーガー。世界中の人気者。でも、明るく楽しいファーストフード店のうしろに何があるのか。みんな知っておかないと、いけない。「人の体は食べものらしい」。



## ロシアン・ダイアリー 暗殺された女性記者の取材手帳



アンナ・ポリトコフスカヤ/著 鍛原多恵子/訳  
 NHK出版 2007年6月 2520円  
 2006年10月7日自宅アパートで暗殺された、ロシアのジャーナリスト、アンナ・ポリトコフスカヤが残した取材ノート。本書を読むと、なぜ彼女が殺されなければならなかったのかわかる。時の政権にとってこんなに「危険」なジャーナリストはいないだろう。国外でも知られたジャーナリストだったが、「国内で出版されない本を書いても意味はない」という姿勢を貫き、「殺された」。

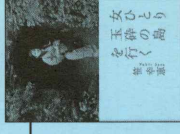
## 女性・戦争・人権 8

「女性・戦争・人権」学会誌編集委員会/編 行路社 2007年6月 2100円  
 「女性・戦争・人権」学会誌、第8号が出た。特集は「＜女性国際戦犯法廷＞以降の世界を考えるー性差別・性暴力・人身売買徹底に向けて」。岡野八代、清未愛砂、伊田広行、ホンユンシン、菊地夏野、藤目ゆき、大越愛子など。



## 女ひとり玉砕の島を行く

笹幸恵/著 文藝春秋 2007年5月 1700円  
 30才のフリーライターが、ガダルカナル島をはじめとする太平洋戦争の戦跡を、2年間にわたってめぐった。80才以上の元日本軍将校たちとともに、あるいは1人で。現代に生きる若者たちが真摯に過去と向き合うことが自然に行われるようになって初めて戦後は終わるのだ、という。



## ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報の抜粋  
 「ミニコミ・ミニコミ」全情報は別刷りしています

## &lt;単発もの&gt; (新着)

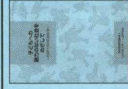
## ■CAP イラスト&amp;コミック版 サクセスストーリー

特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN 2007年5月 630円  
 CAPのプログラムや活動について、イラストやコミックでわかりやすく解説。



## ■子どもへの暴力のない社会をめざして ～CAP10年のあゆみ～

特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN 2007年5月 210円  
 CAPスベシヤリストの10年の活動の記録。



## ■変わった? 変わらない? 男女共同参画センター

～指定管理者制度の導入をめぐって～  
 グループみこし 2007年5月 900円  
 2007年2月に大阪で開催された表題のシンポジウムの記録。あわせて、グループみこしによる男女共同参画センターにおける指定管理者制度の導入状況調査の報告も収録。



## ■ジェンダー史学&lt;創刊号&gt;

ジェンダー史学会 2005年10月 1575円  
 ジェンダー史学会設立大会特集。シンポジウム「今、なぜジェンダー史学か?」ほか論文・書評。年1回刊行。



## ■ジェンダー史学&lt;第2号&gt;

ジェンダー史学会 2006年10月 1575円  
 シリーズ企画「ジェンダーをめぐるキーワード」ほか論文・書評。



## ■乳がん手帳 もしも、あなたが乳がんになったら ～医師に何を聞き、どうすれば良いか

クールカフェ 2007年 525円  
 乳がん体験者である発案者が思いをこめて作った手帳スタイルの冊子。絵葉書(105円)もあります。



## ■均等社会は夢ではない(DVD)

均等待遇アクション21京都 2007年  
 1000円(ライブラリー価格 5000円)  
 ドラマ3本の入ったDVDに40ページの解説冊子つき。



## ■コミュニティの活力源になるライブラリーをめざして

～自分の力を生かして、マネジメント～  
 人と情報を結ぶWEプロデュース 2007年6月 1050円  
 ライブラリー・マネジメント・ゼミナール 講義ノート。



## ■2003/2004年 ユニフェム年次報告書(日本語版)

ユニフェム(国連女性開発基金)の活動報告。  
 ユニフェム大阪 500円



## ■子どもたちから大人への伝言 ～ひとり親家庭で育ったわたしたちの本音～

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 2007年2月 525円  
 ひとり親家庭で育つ(育った)子どもたちの本音をインタビュー形式でまとめた冊子。



## ■このままでいいの? 今時の子育て支援 ～現役子育てママ達でつくった「子育て」に関する調査報告書～

NPO法人SEAN 2007年6月 840円



## 編集長の著者インタビュー

### 気づいて乗りこえる

～精神的DVに悩む女性のためのガイドブック～

人と情報を結ぶWEプロデュース/発行 2007年8月 1050円  
 陵られるわけではない。でも、「自分をいちばん大事にしてほしい」「有力感を感じていたい」といった屈折した心理を背景とし、経済的、性的、精神的コントロールを通じてもたられる、夫から妻への「精神的暴力」...

これを乗りこえるためには、まず第一に、「それが『暴力』だと気づくこと」が大切である。しかし、「気づく」ためには、何が必要? どうしたら、いい?

本書は、著者が、ある女性センターから委託を受けて行っていたDV被害者が集うグループワークから生まれた。グループワークは5年の期限をすぎても自主グループとして継続

### 著者インタビュー 第26回

『気づいて乗りこえる』の著者

長谷川七重さんに聞く

心理カウンセラー



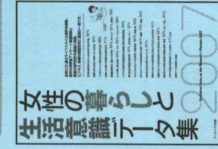
——「精神的暴力」という言葉は、まだ、あまり、一般的ではないようにも思うのですが...

長谷川：そうですね。殴る、蹴るといった身体的暴力は当事者ばかりでなく周囲にとっても認識しやすいですが、きつい言葉で威圧したり、変な理屈で振り回したり、相手を馬鹿にしたりという「精神的暴力」は、それがどういふことなのか、どんな結果をもたらすのか、わかりにくいかもしれない。でも、この「精神的暴力」は、とても心が傷つくものですし、快復にも時間がかかるのです。

——いわゆる「ケンカ」と「精神的暴力」の違いはどこにあるのですか? また、両者を峻別する必要があるのですか?

長谷川：普通のケンカは、勝ったり負けたりで、建設的に行われれば双方がわかりあえるきっかけになることだってあります。でも「精神的暴力」になると、勝者は常に一方です。関係性がゆがんでおり、何よりも、コミュニケーションが成り立たず、話し合いにならないので、建設的な結果をもたらすことは、まずありません。

### 女性の暮らしと生活意識データ集 2007

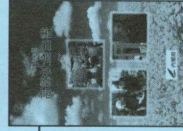


アーカイブ出版 2007年7月 15540円  
 アーカイブ出版編集部/編

女性の暮らしの様々な局面について、官庁統計のみならず民間の研究所や企業が行った調査、消費者アンケート等を項目別に収録。これだけたくさんの調査があるのだと、まず驚く。

### 高齢社会白書 平成19年版

内閣府/編 ぎょうせい 2007年6月 1995円  
 「前例のない高齢社会」を迎えようとする現代日本の年次報告書



され、たくさんのワークやリラクゼーションを从中から見えてきた方向性や成果をより多くの人たちと共有したいという思いが結実して、本書が誕生したのである。それがゆえだろう、各章のはじめについて「気づく」ためのチェックリストは、具体的な気配りがきいていて、使いやす。そのあとの説明は身近なところから説き起こされていて、なるほどと納得できる。自分自身を整理し、周囲に説明するのに大変役立つと思う。当事者たちが「言葉を獲得していく」過程が目に見えるよう

だ。「気づいて、乗りこえて、自分らしく生きていこうよ!!」という、等身大のメッセージがページいっぱいにつまっている、そんな一冊である。(M)

だから、峻別して対応していくことが重要なのですが、これがなかなか大変なのです。

——：被害者自身が、DVを受けていることを認識できない? 長谷川：自分の態度や伝え方に問題があるのかも自信を失くしたり、自分自身が変なのだろうかと思ってしまうという場合もあります。ですから、まず、夫とのコミュニケーションの状態をチェックし、そのとき自分がどう感じたかを整理することにより、関係性のゆがみに気づいてほしいのです。

——：それで、本のタイトルが『気づいて乗りこえる』なのですね。それぞれの章ごとに、気づきのためのチェックリストがついていて、夫との関係を検証できるようになっています。

長谷川：まず、心身の状態の「チェック」をして、そのあとで説明を読んで、夫から受けているコントロールの特徴をつかんでもらえたらと思っています。最終章には乗り越えるための「ワーク」もついていますが、試してみてください。一人で進めることもできますが、カウンセラーと一緒に試みたり、グループでファシリテーターとともに行うと、より効果があると思います。

これからも、こうしたグループワークを広げたり、子どもへの影響を考えたサポートをしていきたいです。——：援助者にも参考になりますし、DVの状態にはない人が読んでも、生き方のヒントみたいなものがつかめそうですね。ありがとうございます。(聞き手：森屋裕子)

### 気づいて乗りこえる

精神的DVに悩む女性のためのガイドブック



### 〔資料〕

#### 男女共同参画白書 平成19年版

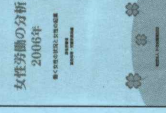


内閣府 日経印刷(株)/発行  
 全国官報販売協同組合/発売  
 2007年6月 2700円

平成19年版の特集は「国際比較でみた男女共同参画の状況—女性の活躍とワーク・ライフ・バランス」各国の仕事と家庭の両立支援策や状況に関しての比較検討がされている。

#### 女性労働の分析 2006年 働く女性の状況と女性の起業

厚生労働省雇用均等・児童家庭局/編  
 (財)21世紀職業財団 2007年7月 1890円  
 毎年発行されている「働く女性の実情」と女性労働関係判例(巻末)を収録している。



## HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

## 書評

これから大人になる10代のあなたへ  
～セックスと愛、そして未来のすべて～

ミカエラ・ビョーム/著 オットソン新妻ゆり/訳  
ノルディック出版/発行 海象社/発売 1680円

そらまめかずえ(i・Dear舎)

鮮やかな緑色の表紙に、化粧っ気のないはにかんだ笑顔の写真。自信に満ちた若さが輝いている。本を開くと、たちまちその内容に惹かれ明け方まで読みふけてしまった。日本の社会から消されていきそうなジェンダーフリーの分らしさを大切に」と表現を変え新鮮な要素を送り、リプロダクティブ・ヘルス/ライツは、性の自己決定としてしっかりと意義が組みこまれている。からだのメンテナンクス方法などは、「クスツ」と笑いつくすようなユーモアを交えながら、サラッと書き上げている。そこに、成熟したスウェーデンの質の高い性教育を垣間見ることが出来る。

この内容を仕上げるまでの過程に思いを馳せたとき、会ったこともない方々のハーストリーを思い描いていた。ただ一つの願い、それは10代や女性とは限定せず、多くの人々の手にこの本を届けたいという気持ちだけ……。常々、性教育は人権教育と考え活動をしている私をとりこにした1冊だった。



## 書評

## 今月のフェミ的

あくまで実践 獣フェミニスト集団FROG/編  
インパクト出版会 1575円

ふかざわ みわこ(フリーライター)

あくまで実践 獣フェミニスト集団FROG (Feminism and Radical Onanie Group)による「フェミがとありげそうでありえないフェミ」論集。雑誌『インパクション』(インパクト出版会)に現在も継続連載中の人気コーナー(9年も続いてるってすごい!)の書籍化です。パラエティにとんだ執筆陣の経歴や職業と若さ、日常を切り取るシャープな目の付け所を大変楽しませていただきました。

毎回レレー形式で執筆者がかわるため、時事に絡んだ多彩な内容となっており、オナニー、セックス、隠される妊婦などの女性のからだのこと、ちよっと懐かしい「つくる会」の教科書問題、ジェンダー・フリーにお世継ぎ問題など、もりだくさん。「フェミとさしてどうよ?」という身近にある変なことを見過ごさず、「実践」「共有」を念頭において、自分の問題として真摯に取り組んでいます。しかも笑いを取りながら!

個人的感想としては、「美人問題」についてとりあげられた「叶恭子」さんの素敵エピソードは「心に残るいい話」としてずっと覚えておこうと思いました。でもフェミニズム的に「獣道」ってことは、世間一般には道ならないことになるのかも…いやいやフェミニズムの広がりと可能性を信じていかなきゃ。なんといっても「あくまで実践」ですからね!



## 読んでください!

## 医療・看護スタッフのための

## LGBTIサポートブック

藤井ひろみ・桂木祥子・はたちさこ・筒井真樹子/編著  
メディカル出版 2007年3月刊 2200円



藤井ひろみ(共著者の一人として)

内容: LGBTIってどんな人たち? / LGBTIを看護・医療面でサポートするには? / LGBTIの家族へのサポートは? / 具体的な相談事例とその対応。

この本は、今から4年前に大阪QWRC (クイアと女性のためのリソースセンター)で開かれていた自主勉強会「血縁と婚姻を超えた関係に関する政策提言研究会」で出会った有志が企画し、出版が実現したものです。LGBTI (レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・インターセックス) コミュニティで、看護や医療の場面において、入院や手術のときに患者本人のことをよく知っているわけでもない親きょうだいの同意が必要であったり、緊急時に、血縁も姻戚関係もないパートナーは、面会はおろか、病状を聞くこともすら難しい、などのお話を多く聞きました。医療機関は現代社会を生きている人にとって、最後のライフラインともいえます。そんな場で人の権利が守らなければ、その人の人生は大きく侵害されることになる、と気づきました。そして、自らも保健医療従事者であったり、この問題に関心のあった有志が、医療や看護のスタッフに向けて、LGBTI (レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・インターセックス) をめぐる医療状況を知ってもらうテキストを作りた、と考えるようになったのです。

今後、日本でLGBTI (レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・インターセックス)の抱える問題に多くの人が気づき、ともに考えるために、本書を活用していただきたいと願っています。

## 研修案内

性的虐待の被害にあった子どもを  
ケアする人のために

—援助職のための研修 スキルアップ&セルフケア—  
第1回

◇日程: 2007年10月6日(土)・7日(日)

◇会場: ドーンセンター 大会議室

◇参加費: 1万円

◇定員: 50名(女性限定—被害にあった子どもたちと関わる援助職の女性)

◇内容: 性的虐待を受けた子どもたちの心身のケアにあたる援助者自身が、性と生の問題にどう向き合うかを深く考え、自らのからだへの尊重感を高め、燃えつきを防止するためのセルフケアを含めたスキルアップ研修です。

お問い合わせは、下記まで(この事業は、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用して行なっています)。

◇主催: 性と身体を考えるネットワークショップ会議  
(事務局: ウィメンズセンター大阪)

TEL 06-6632-7011 FAX 06-6632-7012

ウィメンズブックス

# WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

## ウィメンズブックスストア5 5・6・7月ベストセラーTOP

- 1 人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方  
牟田静香/著 講談社 840円
- 2 地図でみる日本の女性  
武田祐子 木下禎子/編著 明石書店 2100円
- 3 非正規労働の向かう先 (岩波ブックスレット699)  
嶋 桃代/著 岩波書店 504円
- 4 子どもの心をしずめる24の方法  
エリザベス・クレアリー/著 田上時子+本田敏子/訳 築地書館 1680円
- 5 人やまちが元気になる ファシリテーター入門講座  
ちよんせいこ/著 解放出版社 1575円

女性センター、  
女性政策課、研究室、  
図書館向けサービス、  
リストアップ、各種配本の迅速手配、  
データ管理、コーティング、  
専門職派遣など

### ‘ゆう’のグッズ紹介

ウィメンズブックスストアゆうのショップでは、書籍やミニコミの他に、絵はがきや手帖、Tシャツなども販売しています。みなさまの作品も取扱いますので、ステキな作品ができてきたらお持ち込みください。

#### <販売例>

- ・ユニフェム大阪/Tシャツ 年次報告書
- ・カード 封筒など
- ・ごまめ屋/ポストカード
- ・たがいたかこ/ポストカードなど
- ・クールカフェ/「乳がんと手帖」
- ・ポストカードなど
- ・タカタエツコ/ポストカード



### ■‘ゆう’だより

- ◎ ミニコミが元気！です。前号に引き続き新着ミニコミをたくさん紹介することができて幸せです。個性的で、タイムリーで、読む人に元気と勇気と問題意識を呼びおこしてくれるミニコミたち。一般書店では扱っていないものがほとんどです。また今号では学会誌・研究誌にもスポットライトをあててみました。(別冊にて)。

取り扱わせていただけたミニコミ、冊子類がございましたらお知らせください。ミニコミを通じてネットワークがどんどん広がっていいな。

- ◎ 「従軍慰安婦」を扱った書籍出版も元気です！・・・といたいところですが、こちらの方は玉石混交。慰安婦決議が米下院本会議で採択されたことに対する反発のせいも、感情的、暴力的な言葉を使っている、暴露・告発本も目立ちます。そんな中、慰安婦問題の原点を若いひとたちに伝えようとする『まんが「慰安婦」レポート』(7ページ)などの真摯な企画には期待しています。

7月にドーンセンターの館長が竹中恵美子さんから清野博子さんにかわりました。‘ゆう’が入居しているドーンセンターが、引き続きますます活気ある場所でありまいりますように

(編集長:森屋裕子)

### 「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを掲載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)

個人会員 3000円  
海外会員・団体会員 3800円

### リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申送ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

#### <送料>

個人会員 書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料  
書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

## WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

新刊案内 ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃブログ更新中

### メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊案内が中心です。

登録は[info@womens-books.jp](mailto:info@womens-books.jp)までどうぞ

### 原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。次号の締め切りは2007年11月5日です(発行予定日2007年11月25日)

### ◎ 自費出版承ります。ご相談ください。◎

店舗/ウィメンズブックスストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F

電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115

E-mail [info@womens-books.jp](mailto:info@womens-books.jp)

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時

土・日：午前11時から午後6時30分

定休日：月曜 ドーンセンター休館日